

熊本の新しいシンボルが生まれます

■新庁舎建設のあゆみ

昭和五十五年頃から新庁舎建設の話が持ち上がり、十五年余。平成元年には基礎調査を始め、基本設計が公表されたのは平成五年のことでした。昨年は入札・契約制度改善の検討結果を受けて、競争性・透明性を確保するため、県で初めての一般競争入札により工事請負業者を決定。十月六日から解体工事に着手しました。完成は平成九年の予定です。

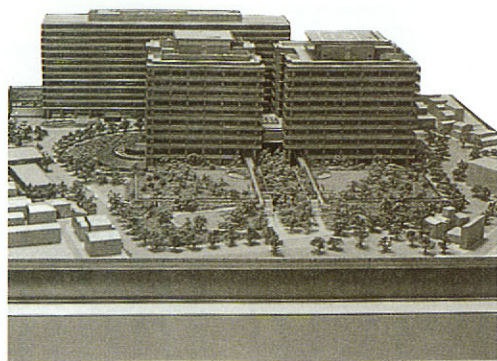
■新庁舎の必要性

現庁舎が建設されて二十八年がたちました。この間、社会経済情勢も大きく変わり、それともない県のサービス業務も変化してきています。そこで、新庁舎の設計に当たってもこれらの点を十分考えながら、県民の皆さんへのサービス向上を目指して様々な工夫を凝らしています。ビル全体がインテリジェントビルとして機能し、業務の省力化、スピード化を図っているのもその一例と言えます。

■親しみやすい庁舎

県庁舎は県民のシンボルであり、県民の皆さんにとつて親しみやすい建物でなければなりません。新庁舎はこのことを大切にしながら設計されました。

新庁舎は現庁舎のイメージも併せ持つ、行政棟と警察棟からなるツインビル風の庁舎で、現庁舎の北側に建設され



新庁舎完成予想模型(手前が新庁舎、奥は現庁舎)

ます。県民の皆さんがよく利用される県民相談室や旅券センター、県民のひろばなどは、できるだけ入口に近い一・二階に配置します。

行政棟には、県民生活により密接な福祉関係、衛生関係、環境関係などの部局が入る予定です。

警察棟では、現庁舎の他あちこちに分散していた交通管制センターなどを集めるとともに、通信指令室なども充実。より迅速・的確な警察活動ができるようにしています。

また、取り壊した後の廃材などはリサイクルし、有効に活用されるようにしています。

約三年間の長期にわたる工事であり、県民の皆さんにも新庁舎がどのように出来上がっていくのか、一緒に見守っていただきたいと思えます。

工事の状況については随時ピラで知らせたり、工事のための囲いには高校生などに絵を描いてもらう計画もあります。

■公共交通機関のご利用を

工事期間中は駐車場も制約され、駐車台数もかなり少なくなつてきますので、来庁の際はなるべく公共交通機関をご利用くださるよう、ご理解と協力をお願いします。

平安時代の遺物がぞくぞく出てきた



団体約百五十人の小中学生たちが発掘調査を体験。数百点の土器が出土し、出てくる度に「あちこちで歓声が上がっていました。なお、出土品は修復した後、博物館、装飾古墳館に収められる予定です。

新庁舎、勤労者総合福祉センターの建設に先立ち、埋蔵文化財発掘調査が行われましたが、平安時代初頭の堅穴住居の跡などが発見され話題を呼びました。新庁舎建設予定地とその南側の駐車場からは、堅穴式住居四棟、堀立柱建物二棟、土器など約三千点が出土しました。同じく勤労者総合福祉センター予定地では、堅穴式住居三十棟、堀立柱建物二棟、土器など二万点以上にも及びました。

県庁一帯はかつて国分寺と国分尼寺に隣接しており、発見された土器や装飾品などから、住人は当時の役人と考えられています。昔の生活がしのばれるユニークな資料になりそうです。

発掘調査の経過は「遺跡資料だより」として付近の世帯に配布されるなど、県庁界隈は遺跡発掘の話題で沸きかえりました。

夏休み期間中は、熊本県下の五



昨年12月に完成した1階2層の南側駐車場

また、庁舎周りについても、皆さんに親しまれている銀杏並木のプロムナードや緑地帯とのつながりに十分配慮しています。新庁舎に隣接する公用車駐車場の屋上には屋上公園も整備。県民の皆さんには、これまで同様、憩いの場として利用いただけるようにしています。

■人と環境にやさしい庁舎

県が推進している「やさしいまちづくり」のモデルとして、建物への進入通路にはスロープや点字ブロックを設けます。また、身体障害者の方などが利用しやすいよう工夫されたトイレやエレベーター、目の不自由な方のための音声による誘導システム、点字の案内サイン、手すりなどが完

備されます。

また、環境面を十分考えて、太陽光を利用した発電システム、雨水の地下浸透や再利用を行うための装置などを取り入れ、自然エネルギーなども有効に活用できるようにしました。

■人と環境にやさしい工法

設計同様、建設にあたっては「人と地球にやさしい」工法をとっています。多くの住宅が隣接しているため、低音・低震動工法を採用。また、地下水を汚すことがないように、杭を深く打ち込まないで済む技術を取り入れています。

さらに、来庁者に迷惑がからないよう、現場での作業をなるべく少なくするなどの工夫を凝らしています。

勤労者の研修・活動拠点

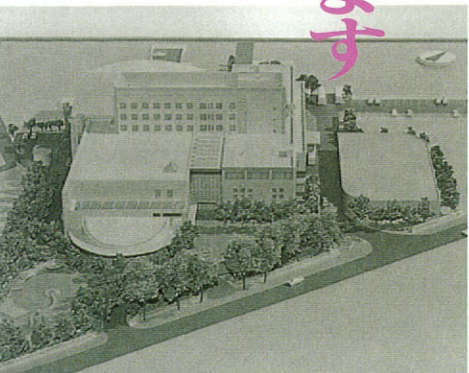
熊本テルサ着工

働く人たちのゆとりを応援します

働く人たちのための各種相談、研修、スポーツ、文化活動の中核施設となる熊本勤労者総合福祉センター(愛称熊本テルサ)が着工しました。

テルサは、県と雇用促進事業団が熊本市と協力して、働く人たちのゆ

とりある生活と勤労意欲の高揚、中小企業の活力の向上を目指して、県庁近くのむつみ荘跡地に建設するもので、八年度に完成の予定です。建物は地下一階、地上六階建てで、一階に職業情報コーナー、七百名収



熊本テルサ完成予想模型

熊本勤労者総合福祉センター

容の多目的ホール、レストラン、スポーツ施設など、二・三階には研修室、大小会議室などを配置し、四・五階は宿泊施設となっています。

建物中央に屋根付きの通路(イベントモール)を設け、利用者にわかりやすい配置としました。さらに「やさしいまちづくり」のモデルとして、また、先頃制定された通称「ハートビル法」にも積極的に対応する建物として、高齢者や障害者の方々にとつても利用しやすい施設となります。

ハートビル法：高齢者や身体障害者の方も利用しやすい建物を普及させるための法律

テルサ(T.E.R.R.S.A)

- Town (都市の)
- Employee (働く人のための)
- Relax (リラクセス)
- Refresh (リフレッシュを目的とした)
- Social (出合いの広がる)
- Amenity (快適な空間)